

令和5年1月10日

緑小だより

1月号
横浜市立緑小学校



ふれあい 学びあい みとめあう みどりっ子

Mail : y3midori@edu.city.yokohama.jp URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/midori>

新年 明けましておめでとうございます!!

学校長 能城 順一

保護者の皆様、地域の皆様、新年明けましておめでとうございます。2023年、令和5年がスタートしました。皆様、穏やかな年末年始をお迎えになられましたでしょうか？私は、今回はおよそ20年ぶりに横浜を離れて、娘夫婦と孫が暮らす千葉の一宮で過ごしました。4歳の男の子、4カ月の女の子、2人の孫と多くの時間を過ごすことができた上に、東京五輪のサーフィンの競技会場となった海岸で、何とも美しい初日の出を見ることもできた、この上ない年末年始となりました。加えて、千葉のこの地は、昨年大河ドラマの中で、佐藤浩市さんの熱演でも話題となった上総広常（かずさ・ひろつね）にまつわる史跡が数多く残されているので、その史跡を訪ね歩いていくこともできました。これも、実に楽しいひと時でした。

また、今回の年末年始で特に心に残ったことは、あの「永遠の若大将・加山雄三さん」が、大晦日の紅白歌合戦で、歌に区切りをつけられたことです。加山雄三さんは、私が小学生の頃からの大スターで、私はもちろんですが、多くの子どもたちが憧れた方です。歌を歌い、しかも自身で数多くの名曲の作詞・作曲も行い、当時まだまだ珍しいエレキギターを華麗に弾きこなし、その上スキーはプロ並みという加山雄三さん。年に数本封切られた「若大将シリーズ」を、父親に連れられてよく観に行きましたが、私と同じように、食い入るようにスクリーンを眺めている沢山の子どもたちが映画館にいたことを、今でも鮮明に記憶しております。そんな加山さんのテレビ画面に映る最後のステージは、とても大病を克服しての85歳とは思えない歌声で、私はとても感動するとともに、また一つの時代が終わった事を感じていました。その後に登場した、加山さんを尊敬してやまない桑田佳祐さんらの、加山さんへのトリビュートソングも素晴らしくて、何日もその余韻に浸ることができました。「継続する事」、そして「しっかりと区切りをつける事」の尊さを学んだような気がした今回の年末年始でした。

今日1月10日からの3か月は、子どもたちが学習や生活のまとめをするとともに、進学・進級という、正に「しっかりと区切りをつける」最も大切な期間となります。特に、卒業を控える6年生の登校日数は、48日という短いものです。私たち教職員一同で力を合わせ、この3か月の子どもたちの学校生活が充実したものになるよう努めて参りますので、保護者の皆様・地域の皆様、どうぞお力添えのほど、よろしく願いいたします。現在、私たちはこれからの3か月、そして次年度令和5年度の学校運営の方向性についても、検討を始めているところであります。社会情勢は完全に「With コロナ」ですので、それぞれの学校の規模・環境に応じて、工夫しながら教育活動を進めていくしかありません。大規模校である本校は依然制限が多く、1月の授業参観は、まだ分散登校の上での参観となりますが、それでも3月の卒業証書授与式は、3年ぶりに「卒業生の合唱」を取り入れ、「保護者の方、2名の参加」の方向に転換していく方針です。令和5年度の学校運営の方針や改善点についても、今後のPTA運営委員会や学校便りの中で発信させていただきますので、その際はぜひ資料をご覧くださいと思っています。いつもお願いしていることではありますが、学校教育は、私たち教職員と保護者の皆様が、「同じ方向」を向いてこそ、高まり深まっていきます。

最後になりますが、これから最も寒さの厳しくなる時期を迎え、新型コロナウイルス感染症、さらにはインフルエンザへの感染という不安はどうしても大きくなっていきます。「With コロナ」となってきた今だからこそ、ご家庭におかれましても、これまで以上に体調管理・健康観察を行っていただけますようお願いいたします。そして、令和5年こそ、世界の中での紛争がなくなり、また、コロナ禍以前の日常を取り戻せる「明るい希望の年」となりますよう、共に願っていきましょう。